



伊豆沼・内沼自然体験講座「水辺の生き物採集と観察会」に参加した子ども達が沼の生き物を間近で観察しました。

Vol.109
令和元年度7月号

— 水辺の生き物をじっくり観察 —

ウナギを上手に掴まえた



6月15日（土）の第1回伊豆沼・内沼自然体験講座に小学生12人とその家族9人が参加しました。沼に仕掛けた定置網で、生き物20種類を捕獲。外来魚のオオクチバスやブルーギルの見分け方を研究員から教わり、大型水槽から探し出しました。また、70cm程のウナギや15cmのテナガエビを生きたまま手にして大盛り上がりです。雨のため沼周辺には行けませんでした。その分じっくりと間近で観察することができました。参加した小学年生からは「先生が魚のことについて、詳しくしっかり教えてくれたところが良かった」「色々な魚がいてすごかった。楽しかった」との感想がありました。

外来魚のオオクチバスとブルーギルを探します みんな満足した様子で観察会を終えました



ライギョってヌルヌルする



— 道徳の教科書に伊豆沼のマガンが登場 —

東京書籍から出版された道徳の教科書で、自然の部分に伊豆沼のマガンが登場します。マガンの保全を通じて、自然の大切さを伝えています。もしかしたら学校の授業で地元の自然が紹介されるかもしれません。



— 宮城大学と関東学院大学で講義をしました —



サンクチュアリセンターの大事な仕事の一つに、普及啓発活動があります。6月には宮城大学と関東学院大学で、伊豆沼・内沼を題材に財団研究員が講義をしました。沼のさまざまな生き物の生態を映像を交えての紹介です。外来魚防除活動やロボットボートを使った植生管理は、全国的に見ても最新の研究で、学生さんたちは興味深く聴いていました。毎年、東北大学など数校から依頼がありますので、今後も情報発信に勤めたいと思います。

— 魚取沼のテツギョ調査 —

宮城県と山形県の県境に魚取沼（ゆとりぬま）という小さな沼があります。この沼には、テツギョという魚が生息しています。およそ100年前に発見され、国の天然記念物に指定された魚です。宮城県が行っている生息状況調査に、財団も数年前から参加しています。徒歩で1時間以上かかる場所にある冷涼な山中、沼に仕掛けを掛けるとたくさんのフナに混じって、テツギョもとれました。テツギョの長いヒレの動きはゆらゆらとして趣があり、調査の疲れも忘れて見入ってしまうほど魅力的でした。来年の調査も楽しみです。



天然記念物のテツギョ



魚取沼（ゆとりぬま：加美郡加美町）

— 伊豆沼・内沼生きもの図鑑 ムナグロ —

ムナグロはハトより少し小さなチドリの仲間です。背中には黄褐色と黒色の斑が混ざり、夏羽の下面は黒色になります。春と秋に日本を通過する旅鳥で、伊豆沼周辺ではゴールデンウィークに水田で見ることができます。写真の鳥をよく見て下さい。右脚に赤色、左脚に青色の標識が付いています。調べたところ、ニュージーランドで標識されたことがわかりました。日本を中継した後、繁殖地のアラスカ西部へ移動すると考えられます。こんな小さな鳥が赤道を越えて南から北へ大移動していることに驚きます。



標識されたムナグロ（写真：狩野博美）

